

令和7年度徳島市八万中学校総括評価表

学校教育目標：志をかかげ、心豊かにたくましく生きる生徒の育成
 (今年度の重点目標)：～チーム八中 輝け八中生～
 1 確かな力 2 豊かな心の育成 3 たくましい体の育成 4 生徒指導・安全教育の充実
 5 行動につながる人権教育・道徳教育の推進 6 特別支援教育の推進 7 家庭や地域に信頼される学校

本年度の重点目標 【評価項目】	具体的な活動計画及び 【評価指標】	自己評価 達成状況と実施状況	学校関係者評価 評定	学校関係者評価 意見	次年度への 課題と改善策
--------------------	----------------------	-------------------	---------------	---------------	-----------------

1【確かな学力の育成】

①授業力の向上及び学習習慣を身につけさせる。	①学習指導方法の工夫・改善に努め、授業の充実を図る。 ②授業公開週間を設け、授業を互いに参観し、感想や意見交換を行うことで授業力の向上を図る。	●【評価指標】授業を通して基礎的な知識や技術が身についたと感じている生徒が80%以上。 ●【評価指標】意欲的に取り組めるように教え方などを工夫していると感じている保護者が80%以上。	「授業を通して基礎的な知識や技術が身につけられている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が90(87)%となっている。 「先生は、わかりやすく、また意欲的に学習に取り組めるように、教え方などを工夫している。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が85(82)%となっている。	A	着実に成果を上げていることがうかがえる。授業の質の高さと学習指導の工夫が実を結んでいる。「内発的動機付け」に着目している点は、単なるルールの押し付けではなく、生徒の主体性を育てようとする姿勢が感じられ、教育的にも意義深い取り組みである。	授業の工夫や成果を保護者に伝える機会を増やし、家庭との共有を強化する。「身につけていない」と感じる生徒へのフォローアップ体制(個別指導、学習相談など)を研究していく。学習規範の定着にやや揺らぎが生じている兆しかもしれない。生徒と教職員で「学習規範の意味」や「なぜ2分前着席が大切か」を再確認する機会を設け、内発的動機を維持・強化する。また、生徒の声も活かし、改善策を検討する。
②授業の準備・チャイム2分前着席ができ、チャイムとともに授業を始められる。	②全教職員の一点突破的な学習規範指導との共通理解のもと、生徒に意義等を周知徹底し指導を行う。	●【評価指標】授業2分前着席できている生徒が85%以上。 ※内発的動機付けにより、自らの意思により行動できているかを評価する。	「チャイム2分前着席を自分の意思できている。」に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が85(85)%となっている。	A		

2【豊かな心の育成】

他人を思いやる心や感動する心の育成。	①年間計画に沿った、道徳・人権の授業を展開する。 ②学校行事や生徒会活動等の活動を通し、全ての教職員の共通理解を図る。	●【評価指標】友達や自分を大切にできる生徒が85%以上。 ●【評価指標】協力して学校行事などに取り組むことを楽しいと感じている生徒が85%以上。	「相手の思いや考えを尊重したコミュニケーションを心がけている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が94(94)%であった。 「まわりの人と団結して、学校行事などに取り組むことは楽しい。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が97(95)%であった。	A	学校行事や生徒会活動を通じて、他者を思いやる心や協働の楽しさが実感できている。教職員の共通理解と連携が、子どもたちの心の育成に良い影響を与えている。	「思いやり」や「感動する心」は数値化が難しい側面もあるため、日常の言動や行動面での変容をどう捉えるかが今後の課題である。形式的な回答や集団的の同調による影響の可能性も考慮し、自由記述や観察を通じた実態把握の方法を検討する。
--------------------	--	---	---	---	--	---

3【たくましい体の育成】

①望ましい生活習慣の定着と自らの健康に関心を持つ生徒の育成。	①衛生管理・保健指導について教科横断的な指導ができるよう計画と研修を行い、全ての教育活動において指導する。	●【評価指標】規則正しい生活習慣が身につくように意識できている生徒が85%以上。	「健康的な生活ができるよう生活習慣に気をつけている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が86(88)%であった。	A	発達段階に応じた教育活動が、生徒の生活習慣への意識づけに一定の効果を与えている。学校全体での支援体制が、日常の行動に良い影響を与えている。	「気をつけている」という自己評価は主観的で、実際の生活習慣(睡眠・食事・運動など)とのギャップがあるかもしれない。生活習慣チェックシートの活用など生活を記録し、実際の行動に良い影響を与える取り組みを研究する。
--------------------------------	---	--	--	---	---	--

4【生徒指導・安全教育の充実】

①望ましい集団活動を通して、自らの生き方について自覚を深める。	①生徒一人一人に丁寧に向き合うとともに、個に応じたきめ細かな指導を目指す。	●【評価指標】生徒が所属感を持ち、安心して生活が送れるように取り組んでいる教師が85%以上。 ●【評価指標】安心して学校生活を送れていると感じている生徒が85%以上。	「生徒の居場所づくりや所属感が高まるような学年・学級経営をめざしている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教師が100%であった。 「安心して学校生活を送れている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が96(96)%となっている。	A	教師の100%が「生徒の居場所づくりや所属感を意識した学級経営をしている」と回答しており、教職員の意識の高さと共通理解の深さがうかがえる。生徒の96%が「安心して学校生活を送れている」と感じており、安心・安全な環境が実感されていることが分かる。	残りの数%の生徒が「安心していない」と感じている背景を丁寧に把握する必要がある。情報モラルや防災教育についての生徒の理解度や実践力に関する評価項目が不足しているため、次年度はその視点も加える。予防教育の実効性の検証として、防災訓練や情報モラル教室の後に、理解度や行動変容を測るアンケートや振り返り活動も検討する。
②自他の生命を尊重し思いやりのある心の醸成と安全・安心な教育環境の実現を図る。	②防災・情報モラル教室等、生徒や地域の実態に即した予防教育を目指す。	●【評価指標】安全な学校環境づくりのために常に施設設備の点検等を行っている教師が87(90)%以上。	「安全な環境づくりのために常に施設設備の点検等を行っている。」では、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教師が97(90)%であった。	A		

5【行動につながる人権教育・道徳教育の推進】

①人権教育・道徳教育を推進し、豊かな人間性を育む。	①他者への思いやりや自他の命を大切にすることを育てる。	●【評価指標】先生は生徒の人権意識を高める指導をしていると感じている保護者が80%以上。	「先生は、生徒の人権を高める指導をしている。」では、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が84(85)%であった。	A	「自ら立てた目標に対して挑戦している」は、目標の80%には届いていない結果となっている。挑戦することの大切さを伝える取り組みは行われているものの、生徒自身の行動変容にはもう少しの支援が必要と感じる。	他者理解や共感を深める実践的な学びを取り入れ、体験型アプローチの強化を図る。道徳や総合的な学習の時間に、失敗から学んだ経験を出し合う機会を設け、失敗をポジティブに捉える授業を行う。夢を実現した人の体験談を通して、進路や生き方を考える講話を実施する。
②自らの可能性を求め、失敗を恐れず挑戦できる態度を育む。	②失敗を恐れず、挑戦することの大切さを伝え、挑戦に対して称賛と励ましの言葉がけをする。	●【評価指標】自ら立てた目標に対して、挑戦していると感じている生徒が80%以上。	「自ら立てた目標に対して、失敗を恐れず挑戦している。」では、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が73(75)%となっている。	B		

6【特別支援教育の推進】

①生徒理解に努め、生徒一人一人のニーズに応じた援助や支援の充実を図る。	①生徒一人一人の発達段階に応じた教育活動を組織的に実施する。また、学校全体でポジティブな行動支援に取り組む。(SWPBS)	●【評価指標】生徒のことで保護者と連絡や相談が適切に行きとれていると感じている教師が85%以上。	「先生は自分の良さに気づいてくれている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が85(84)%であった。 「生徒の良さを認め、積極的にコミュニケーションをとっている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教師が100(97)%であった。	A	生徒の85%が「先生は自分の良さに気づいてくれている」と感じており、教員による個別理解と肯定的な関わりがしっかりと伝わっている。	教員の意識は非常に高いものの、保護者との連携に関する具体的な評価データが不足しているため、保護者アンケートの活用も検討する。日常の中で小さな成功や努力を見つけて言葉にする文化をさらに広げる。SWPBSの成果を測る指標の導入を研究する。
-------------------------------------	---	--	---	---	--	---

7【家庭や地域に信頼される学校】

①オープンスクールや日々の教育活動について、適切に情報発信する。	①開かれた学校として、HP・学年だより・学校だより等を発信し、学校の様子を発信するとともに、地域との連携を図るよう努める。	●【評価指標】学校は、保護者に学校の様子をHP・学年だより等でよく伝えることができていると感じている保護者が80%以上。	「学校は、保護者に学校の様子をHP、学校学年だより等でよく伝えている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が85(79)%となっている。	A	HPや学年だよりなどの情報発信が、保護者にしっかり届いていることがうかがえる。	地域との連携についても、保護者が直接目にする機会が限られている場合、実感しにくいことが考えられる。保護者・地域住民が参加できるイベントを増やし、学校と地域とのつながりをさらに深める。また、人材活用の様子を写真や記事で紹介し、見える化を進める。
②外部人材や地域の教育資源を活用し、教育効果を高める。	②学校は、地域行事への参加や地域の人材活用により、地域の持つ教育力を積極的に取り入れる。	●【評価指標】学校は、地域行事への参加や地域の人材活用など、地域との連携が図られていると感じている保護者が80%以上。	「学校は、地域行事への参加や地域の人材活用など、地域との連携を図っている。」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が84(79)%となっている。	A	また、地域行事への協力や人材活用など、地域とのつながりを意識した取り組みが実感されている。	